

# アジア諸国における産業用ヒートポンプ市場動向（後編）

八尾 怜伽（やお れいか）株式会社 富士経済 エネルギーシステム事業部 第二部一課  
清水 耕平（しみず こうへい）株式会社 富士経済 エネルギーシステム事業部 第二部一課

**要約** アジア諸国の産業用ヒートポンプ（HP）市場は、導入政策の有無や業界団体・研究機関による活動、メーカーの製品展開状況などによって、国ごとに大きく異なる。本稿では、富士経済が実施したアジア諸国の産業用ヒートポンプ導入状況の調査結果を全2回に分けて概説する。アジア諸国の中でも特に東南アジアにおいて、産業用ヒートポンプを展開しているメーカーは現地系、欧米系、中国系、韓国系に分類され、2010年代前半から導入を始めている。現地系と中国系は幅広い産業用ヒートポンプを展開しているのに対し、欧米系と韓国系は大型の水熱源ヒートポンプに特化しているのが特徴である。

## 1. はじめに

富士経済は1962年創業の市場調査機関である。2000年代後半より空調・熱源機器の市場調査を継続的に実施しており、HVAC機器市場や利用実態、主要メーカーの動向などについての調査を行ってきた。

この度新たな試みとして、日本の産業用ヒートポンプを海外へ展開するにあたり、アジア諸国の中でもインドネシア、ベトナム、タイ、韓国、中国を調査対象とし、業界団体や主要メーカー等の文献調査を行うことで、海外の産業用ヒートポンプ市場の概況整理を行った。

後編では、アジア諸国の中でも東南アジア諸国（インドネシア、ベトナム、タイ）において、産業用ヒートポンプを展開する主要メーカーの事業戦略を軸に、産業用ヒートポンプの導入国、導入開始年、製品ラインナップについて整理を行う。

尚、本調査は2020年2月から3月にかけて実施したものであり、2021年8月時点では製品ラインナップ等に変更点が生じている可能性がある。

## 2. 東南アジア主要メーカーの特徴

本調査では、東南アジア諸国に産業用ヒートポンプ機器を展開するメーカーとして、現地系（Advance Cool Technology）、欧米系（Carrier、Trane）、中国系（Midea、Gree）、韓国系（LG Electronics）を対象とした（**図表1**）。

主要メーカーの導入国を見ると、欧米系・韓国系はタイ、ベトナム、インドネシアの3カ国に幅広く展開しているが、中国系はタイへの展開が見られなかった。

現地拠点設立年や製品掲載年、公開導入事例などを参考に推定した導入開始年は、主要各社とも2010年代前半頃であると考えられる。

導入製品は、空冷ヒートポンプチラー（空冷HPチラー）、業務用ヒートポンプ（業務用HP）、水熱源ヒートポンプ（水熱源HP）の3種類が主に展開されている。現地系と中国系は幅広い機種を展開する一方、欧米系と韓国系は大型の水熱源ヒートポンプの展開が中心である。

加熱能力は、小容量から大容量まで幅広くそろえる現地系と中国系、大容量に集中している欧米系と韓国系に分かれる。供給温度は50～60℃が中心だが、Carrier、Trane、Gree、LG Electronicsは60℃以上の機種を有する。